

市を売り出そう！物産展に出展 大阪・西宮



▲西宮の酒ぐらルネサンスと食フェアの様子

市や商工会、農協、酪農協、水交会等で組織される特産物販路拡大・物産展協議会が、9月28日、29日に行われた「大阪ミナミ活性化事業ふるさと市場」と10月5日、6日に行われた「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」に出展しました。

玉ねぎを初め、南あわじ市産の新鮮野菜や沼島産の魚介類、アイスクリン、地酒を販売した他、淡路瓦や淡路島の観光のPR、ゆるキャラによるにぎわいづくりに努めてきました。西宮の酒ぐらルネサンスは

今回で4回目の出展となり、これまでの出展から顧客も付き盛況でした。また、大阪でのイベントは、昨年まで参加してきた大阪あきない祭の代替イベントとして大阪市内のなんばパークス周辺で開催され、当協議会として初出展。イベントとしては知名度が低かったのか販売に関して苦労した部分もありましたが、今後も大阪をターゲットと捉え積極的にPRを実施していきます。



▲大阪ミナミ活性化事業ふるさと市場の様子

福良つずまるフェスタ・津波防災フォーラム



▲先生の笛で地震に備えた体勢をとる子どもたち

今後30年以内に60〜70%程度の確率で南海トラフを震源とする地震が発生すると言われております。県下において最も大きな被害が予測されている福良地区で10月6日、防災について考えるイベント「福良つずまるフェスタ」が福良港津波防災ステーションを会場に開催されました。

開会式の後、和太鼓美鼓音による勇壮な太鼓の演奏やちどり保育所の子どもたちによるだんじり唄などが披露されました。また保育所の先生が突然吹いた笛の音に、子どもたちがその場にしゃがみ込み、手で頭を覆う場面もありました。同保育所では先生が「命の笛」と呼

んでいる笛を常に携行し、地震が発生した時に子どもたちに知らせる訓練を行っているというものでした。この日は災害時の非常食にもなる福良特産のそうめんの振舞いのほか、市消防団などしこ分団による救命講習や津波防災についてまち歩きをしながら学ぶ「福良路地裏探訪」、防災×クイズなどが行われ、訪れた地元の人や観光客は楽しみながら防災について学びました。



▲市消防団などでしこ分団による救命講習

また、同日の午後からは、南淡公民館で「津波防災フォーラム」が開催されました。南海トラフ巨大地震に備え住民意識を高め、正しい知識を持つてもらうと淡路県民局、市、土木学会が主催して今



▲会場からも意見が飛び交ったフォーラム

年々4回目の開催です。基調講演の後、パネルディスカッションが開かれ「地域防災をいかに無理なく継続させる仕組みづくりが重要である」といった意見や「津波の危険性などを隠さずオープンにして、安心のおもてなしができる地域にしよう」といった意見が出され、会場からも「女性の力を防災にもっと生かしてはどうか」など活発な話し合いが行われました。



▲「一人ひとりが主役の津波防災のチカラ」をテーマに開かれたパネルディスカッション

吉備国際大学からのお知らせ

◆ランチ・タイム講座を開催しました

9月25日(水)に市民の人たちを対象に第1回ランチ・タイム講座を開催しました。

第1回は内藤先生「人類生き残りは可能か?」、橋本先生「太陽から吹く風のはなし」というそれぞれの専門分野に即したテーマで、身近な話題も取り入れながら昼食をしながら行いました。10月以降も地域創成農学部各教員が自身の専門分野における話題を中心に講義を開催します。来年2月まで毎月1回のペースで開催しますが、今年度は30人の定員を既に満たしていますので申込を締め切っています。



▲内藤先生によるランチタイム講座

今年度の開催を踏まえ、より満足していただけるよう改善して来年度以降もランチ・タイム講座を継続して開催していきますのでよろしくお願いいたします。

◆秋の交通安全運動の手伝いに参加しました



▲交通安全を呼びかける地域創成農学部の学生

9月20日(金)に秋の交通安全運動の啓蒙のため南あわじ警察署及び関係団体の人たちと共に地域創成農学部学生10人が市内でチラシや「事故無し」の願いを込めた梨をドライバーの人たちに配布しました。

☎ 42・4700
FAX 42・4701
〒670-0142 南あわじ市

ふれあい市長室

元気な南あわじづくりに着実に前進

南あわじ市長 中田勝久

10月27日、南あわじ市議会議員選挙が執行されました。激戦を勝ち抜かれ、市民から付託されました18名の皆さんに心からお祝い申し上げます。新しく当選されました議員の皆さんと建設的な議論を交わし、元気な南あわじづくりにするために共に前進してまいります。

さて、若人の広場公園整備工事、新庁舎建設工事につきましては、広報紙や新聞でも報道されましたとおり9月8日(日)、9月14日(土)にそれぞれの安全祈願祭・起工式を行いました。準備工事を経ていよいよ本格的な工事に入ります。

若人の広場は、昭和42年に建設され、当初は多くの入館者がありました。しかし、時間が経過するにつれて戦争に対する意識の低下と施設の老朽化により利用者数が激減し、加えて平成7年の震災の影響などで閉鎖してまいりました。早期の再開が待ち望まれる中、関係各位のご尽力により平成22年度に市が財団から土地・建物を取得、恒久平和を願

い誓い合える場所として、また市民や観光客が憩える都市公園として平成27年春の完成を目指して工事を進めています。防災面では、防災拠点、災害対策本部拠点として、災害発生後は災害復旧(復興)拠点として大きな役割を果たします。現在、分庁舎5箇所に分散している機能を1箇所にとまとめることにより、二元的且つ効率的な行政サービスの提供が可能となります。これにより、市民の皆さんへのサービス向上は勿論、職員への適正配置による組織のスリム化、経費の削減、命令系統の効率化など行政運営全般に渡って多大な効果が期待できます。

併せて市内21箇所を設置する市民交流センターで活発な地域活動を推進するとともに、主な

証明書発行などの窓口サービスを補完することにより市民センターにつきましては、全地区への設置に先駆けて本年度から松帆、伊加利、西淡志知、神代、三原志知の5地区でモデル事業を実施しており、検証を行いながら、全地区オープンに向け推進してまいります。

組織面では、10月1日付けで2人目の副市長として矢谷浩平氏が就任しました。南あわじ市の主要産業である農業、酪農、畜産、漁業など第1次産業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、状況を嘆いてい

るだけでは何も変わりません。市の第1次産業における課題解決、そして6次産業化や観光との連携なども含めた更なる発展に向けて農林水産省出身である矢谷副市長の知見・人脈を活かしながら、食の拠点施設整備などの施策にも取り組んでまいります。